快護通信

A good care makes a good smile. A good smile induces happiness.

2023年
7月発行
発行人光洋

62号

KOYO 株式会社光洋　オンリーワンケア事業部

株式会社光洋●〒236-0004 横浜市金沢区福浦 1-5-1●TEL045-701-2210

紙おむつのあて方ムービー

「排泄ケアお役立ち情報をご案内中」

光洋　検索

http://www.koyo.jp

『スキンクリーンコットン』で便の悩みよ、さようなら！

便のもれでお困りの皆さん、多量の水様便のもれを防げて、さらにスキントラブルまで予防できる商品がもしあったとしたら、現場にとって救世主的存在になると思いませんか？
実はそんな商品が、あるのです！！

「スキンクリーンコットン」

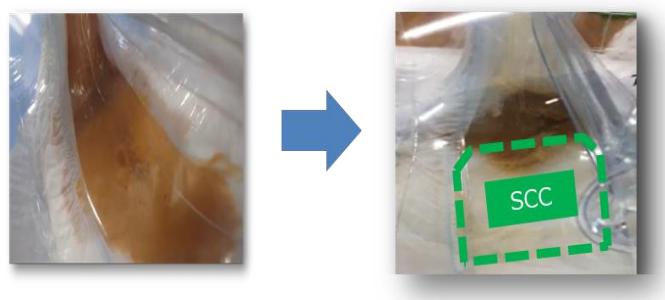
その商品の名前は、『スキンクリーンコットン（以下SCC）』といい、制菌ポリエステル綿という、弾力ある特殊な素材で作られています。
その綿が便の残渣物をからめとり、便に含まれる水分や尿を素早くおむつへ移行させるため、もれを防ぎ、肛門・陰部の周囲の皮膚を清潔な状態に保つのです。
そのため、便による褥瘡の予防に効果があると、褥瘡学会でも取り上げられています。

使用方法

おしりを洗浄し充分に水分を拭き取った後、下記画像を参照に、便の性状や量に合わせ、使用量を1/3～1/8、を目安にSCCをちぎり取り、臀列に挟むようにあてる・陰部を覆うなど汚染を防ぎたい部分に広げてご使用ください。
ブリストル排便スケール４・５のような水分量の少ない便の場合、便が線維に絡まらず、水分がうまくろ過されないため、逆にもれを起こしてしまうことがありますので、ブリストル排便スケールの６・７の便にご使用ください。
下剤による大量便の漏れを防ぐ場合は、尿取りパッドを使用せず、便用パッド（光洋：ひろびろパッド）やテープ止め単体に、SCCを併用してご使用いただくとより効果的です。

疑似便を使っての使用比較（テープ止め単体）

SCC未使用　　SCC使用



上記の画像は、固形分15%･水分85%の疑似便200gを流した幅広テープ止めに、水200㎖を3回に分けて流した当社による比較実験の結果です。
見ての通り、SCC未使用の場合、水分がおむつの表面で目詰まりを起こし水たまりのような状態になっています。
反対にSCC使用時は、繊維の間に便が絡まり、水分は下のおむつへすべて吸収されているのがわかります。

SCCで便対策を！

今までどんな対策をとってきても便のもれ・スキントラブルが改善できず困っていた皆さん、ぜひSCCを使ってみてください！
商品に関するお問い合わせ・ご質問等は弊社担当営業までお気軽にお声がけください！

SCCの使い方

吸収実験動画はこちら！

おかげさまで光洋は創業50周年

「来るべき高齢化社会に向けて、人々が少しでも幸せになるよう、介護する側・される側の両方に喜ばれるような大人用の使い捨て紙おむつを作ろう。」
その思いから1973年５月29日、株式会社光洋は創業し、2023年50周年を迎えることができました。
成長を続けられるのも、支えてくださるお客様のおかげです。

これからも、社員一同初心を忘れず、創意、熱意、奉仕の精神をモットーに、
「排泄で悩む人がいなくなる未来」
を目指していきます。
今後とも株式会社光洋をよろしくお願いいたします。

Congratulations

企業理念

一人一人が皆、毎日心地よく生活できる社会を創造する。
創意、熱意、奉仕の精神をもって、人々のQOL向上に寄与し、生きる喜び、幸せ、満足を追求する。

マイスター取得施設のご紹介

10号：社会福祉法人芦別慈恵園様(北海道芦別市)
11号：メンタルホスピタルかまくら山様（鎌倉市）
2期生認定：特別養護老人ホーム久下けやきハウス様（埼玉県加須市）

社会福祉法人芦別慈恵園様

写真
左：川邊弘美理事・総合施設長
右：白井友枝さん（候補生）

芦別慈恵園様のマイスター研修は、介護リーダーでもある白井さん1名で始まりました。一緒に話し合ったり相談し合ったりできるメンバーがいなかったため、施設全体に波及させるために月一回の職員研修を利用し、どのような内容だったか、どのように現場に落とし込んでいくかなどを伝えてきました。そして、普段から職員とのコミュニケーションを積極的に取っているという川邊施設長もこの取り組みを全面的に応援してくれて、施設全体で取り組みに参加するという空気が自然と出来上がっていたといいます。
「リーダーとして今までも職員育成を行ってきましたが、皆に手技を統一してもらうのはとても大変でした。伝え方や教え方の大切さを改めて感じることができました」研修を振り返って白井さんはそう話します。
そして現在、法人内でもベッドセンサー・温湿度センサー・人感センサー等、ICTを活用し、利用者がより良く過ごして頂けるよう様々な取り組みを行っているそうです。
「排泄ケアというのは、利用者にとってとてもデリケートなケアです。そのため配慮あるコミュニケーションを心がけ、心を寄り添わせることが不可欠だと思っております。人が人をケアすることの本質は、ぬくもり・優しさといった『心』があること。それを忘れないようこれからもマイスターとして頑張っていきたいです」
と愛情たっぷりに語ってくれた白井さん。これからもマイスター研修で学んだ内容を生かして、利用者が笑顔で過ごすことができるよう活躍してください。

特別養護老人ホーム久下けやきハウス様

写真
上段左：三輪明さん（1期生）
上段中央：田中宏武副施設長
上段右：大島哲也さん（1期生）
下段左：村越陽子さん（2期候補生）
下段右：佐々木久子さん（2期候補生）

久下けやきハウス様は2期生の認定です。1期生の活躍に刺激を受け、2人でスタートしました。
コロナの影響でなかなかスムーズに進まなかった時期もありましたが、1期生の皆さんの協力もあり、2年がかりでの認定式となりました。
「大変だったけど、この研修に参加する前と現在とで自分自身の意識が変わったと実感しています。手技が向上し、利用者にも自分にも負担のない介助の方法を習得でき、排泄ケアだけでなく介護職として成長できたと思います」と話す佐々木さん。
村越さんも「研修で学んだ**『自分が楽だと思う介助は利用者も楽』**という考え方はどんなケアにも応用していきたい」と話してくれました。
認定式に参加してくれた1期生の大島さんは現在介護長を務め、マイスターの立場と両立して現場をまとめています。
「1期生は三輪さん含め全員男性なので、女性目線でケアに細やかさを与えてほしい。連携して施設全体のケア向上を図っていきたい」
と副施設長・三輪さん共にエールを送ります。
杣木澤施設長からは「マイスターをきっかけに全職員が排泄ケアに目を向けるようになった。そして全職員が「施設の排泄ケア向上」という同じ目標をもつようになったと感じている。施設の中では全ての基準が施設内で決まっていく、マイスターがその基準をさらに上げていってほしい」と、期待いっぱいの言葉が送られました。
今後の目標は「下剤に頼らない排便ケア」。NSと連携して進めていくそうです。3期生のスタートも楽しみです！

メンタルホスピタルかまくら山様

写真
左：平田秀一さん（候補生）
中央：阿部生行看護部長
右：佐藤友里恵さん（候補生）

メンタルホスピタルかまくら山様の取り組みのきっかけは**「患者のQOL向上のために排泄ケアの向上は必要なこと」**という看護部長の考えにマイスターという取り組みがぴったりはまったことでした。
「2人がマイスターの取り組みを通して自信をつけ、モチベーションを高めることで職員全体にいい影響をもたらせたらと始めました。取り組みを通して、おむつの使用方法だけでなく院内の排泄ケアに対する意識が変わりました」
候補者は、各病棟から介護福祉士を1名ずつ選出したそうです。
「ケアに対し自信がつきました。発注なども行うようになり院内全体に目を向けられるようになりました」そう話すのは平田さん。以前から心のこもったケアを心がけていたという平田さんはこの取り組みに参加する前は自分の手技に自信が持てず、思いと技術を両立させたいという気持ちで参加したそうです。
佐藤さんは、「はじめはくじけそうになったけど、今になってみると本当にやってよかったと思います」とほっとした表情を見せてくれました。
最初は認定までやり遂げられるか不安でいっぱいだった佐藤さんは、研修を通じやりがいを感じ始め、気が付いたら職員から「排泄ケアのことは佐藤さんに聞こう」という流れができていたそうです。
これからは、院内だけでなく在宅看護・介護で排泄ケアにお困りの方にも、マイスターの活躍の場を広げていくビジョンを掲げているメンタルホスピタルかまくら山様。すでに町内会等のおむつのあて方講座も実施予定とのこと。今後の活躍に期待しています！